Y09b　プラネタリウムにおける天文学会講師派遣プロジェクトの実践

○毛利勝廣 (名古屋市科学館・天文学会教育委員)、高橋真理子 (山梨県立科学館・JPS 教育委員)

2000 年の天文学会秋季年会で行った、天文教育フォーラム「新世紀のプラネタリウム利用を提案しよう」での提言を受けて、天文学会教育委員会では、学会員から、一般向け講演をおこなう講師を募集し、派遣をおこなってきた。　中でも当初から念頭に置いたのがプラネタリウムでのイベントである。プラネタリウムは全国で 500 万人もの動員能力を持ち、かつ一部ではあるが、天文教育の専門スタッフがいる。そこで学会の研究者とプラネタリウムの教育者が協同で教育活動を行うのが最も効果的であると考えたのである。

そこで日本で最も大きなプラネタリウムの組織である日本プラネタリウム協会 (JPS) に、天文学会からの協力を依頼した。それを受けて、JPS では教育部会の活動として、研究者と教育者のコラボレーションの実践を行った。

発表では、現在までに広島、東京、札幌などで行われた実践例を報告するとともに、その問題点と今後の展望についても考察する。